

# 静岡県 精神保健福祉だより

No. 108 2012.11

静岡県精神保健福祉センター  
静岡県こども家庭相談センター  
精神保健福祉部

〒422-8031 静岡市駿河区有明町2-20  
TEL 054-286-9245  
FAX 054-286-9249

<http://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-810/seishin/index.html>

## 目次

### P1 特集

精神障害者アウトリーチ推進事業（静岡県精神障害者訪問支援推進事業）の取組

### P2~3 特集・報告

特集・報告 … 一般向けゲートキーパー養成研修を実施しました。

特集 … ～自殺対策事業～法テラス静岡（日本司法支援センター静岡地方事務所）の取組

### P4 お知らせ・コラム

お知らせ … 静岡県精神医療審査会事務取扱い研修会のお知らせ  
心の健康フェア 2012 の御案内

コラム … メンタリストになりたい

## 特集

## 精神障害者アウトリーチ推進事業 （静岡県精神障害者訪問支援推進事業）の取組

アウトリーチ推進事業をご存知ですか？厚生労働省では、平成 23 年度から新たに「精神障害者アウトリーチ推進事業」を開始し、平成 23 年度は全国 15 自治体で 24 か所の病院等で実施されました。静岡県においても平成 24 年度から「精神障害者訪問支援推進事業」として、県東部地域で取組みを開始しています。

これまで治療中断者や自らの意思では受診が困難な方等は、支援の遅れにより重症化することや地域生活における支援体制が不十分となり、重症者の場合は強制的な入院によらざるを得ないことがありました。アウトリーチ推進事業では、このような方に対して専門職がチームを組んで、必要に応じて訪問支援を行う「アウトリーチ」により、保健、医療、福祉サービスを包括的に提供し、丁寧な支援を実施することにより在宅での生活を可能にすることを目的としています。この際、課題の解決を入院という形に頼らないということが前提となります。

静岡県での取組みとしては、県東部地域において、県からの委託を受けた沼津中央病院及び伊豆函南病院で合同支援チーム（精神科医師、医療・福祉職、事務職員）を構成し支援を開始しました。事業対象範囲は、2 病院をそれぞれ中心として概ね 30 分以内で到達できる地域とし、支援対象者は、治療中断者、長期入院後退院した方、入退院を繰り返す方、未受診者などとし主に統合失調症が疑われる方となります。支援の流れとしては、相談者（本人・家族・関係機関）からの相談・支援依頼を支援チームが受理し、アセスメント及び個別支援計画を作成します。その後、選定会議において支援の要否を判断します。選定会議では新規対象者の選定だけでなく、継続対象者への支援経過確認、個別支援計画の見直し等について検討を行います。また、支援チームは選定会議とは別に週 1 回のチームミーティングを実施します。支援期間は 6 か月を 1 期間として実施し、支援期間が到来した対象者については、選定会議で支援の継続の要否及び終結について判断を行うこととなります。

では、これまであった ACT とはどのような違いがあるのでしょうか。ACT は、本来なら入院が必要となるような重症者を対象に、原則的には利用者と治療契約が交わされた多職種による訪問形態であり、診療報酬等の対象サービスを活用して実践されているものです。アウトリーチ推進事業では、治療契約等が交わされていない方を対象とし、診療報酬による支援や障害福祉サービスにつなげていない段階からの支援としていることに違いがあります。

静岡県における取組みは始まったばかりですが、住み慣れた地域で暮らしたいとの想いは誰もが持つ希望であり、精神に障害のある方にとっても同様ではないでしょうか。

精神保健福祉施策においても「入院医療中心から地域生活中心」という基本理念に基づく方策が推進されています。この様な流れの中でアウトリーチ推進事業も将来の一般制度化が目指されています。

## 一般向けゲートキーパー 養成研修を実施しました。

9月26日(水)～28日(金)の3日間で、東部・中部・西部の3会場にて、一般向けゲートキーパー養成研修を開催しました。平日夜間での開催でしたが、東部会場57名、中部会場61名、西部会場32名と3会場で合計150名の参加があり、また10代から70代の幅広い年齢層の方に参加をいただき、県民の方のゲートキーパーへの関心の高さが窺われました。

ゲートキーパーとは、『悩んでいる身近な人の変化に気づき、声をかけ、話を聴き、必要な支援につなげ、見守る人』のことです。静岡県では、平成24年度の自殺対策事業の重点事業として、県民一人ひとりがゲートキーパーになっていただけるよう、研修を各地でおこなっています。今回の一般向け研修では、日本や静岡県の自殺の現状をはじめ、悩みを抱えた人への具体的な声のかけ方、話を聴くためのポイント、相談窓口へのつなげ方等、DVD視聴やロールプレイでの体験を通して学びました。

### >> 参加者の方の声(アンケートより)

- ・静岡県では1日に2人自殺者がでていると聞き驚きました。要因の連鎖によって自殺につながることを知りました。
- ・余計な声かけをしては迷惑かなとつい言葉を飲み込んでしまうことが多かったと思いますが、これからはちょっと気づいたら思い切って声をかけてみるということも大事と思いました。気にかけてくれていると思ってもらうことも大事だし、何かのときにちょっと話してみようかなと思いついてもらえたらとも思いました。
- ・実際にロールプレイで体験することで、より深く話しを聴くことの難しさを知り、また良い相談のポイントを知ることができた。
- ・周りにうつの方がいたが、結局立ち直ることができなかった。病院へ一緒に行こうと誘っても迷惑がかかるからと一緒に行く事もできなかった。今日の研修の声かけの仕方等とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・子どもや主人に対しても一言が大事(共感)なんだなあと思いました。悪い対応ばかりしていたので反省です。
- ・難しいと思っていたがやってみようと思う。実際にできるかわからないが日常でも活かしたい。小さいことでも取り組んでいけたらと思う。バツ大切にさせていただきます。
- ・特別な言葉はいらない。`あなたの事を気にかけているよ`という姿勢だけでもゲートキーパーとしての役割が持てるのだという事が分かった。



講義の様子



ロールプレイの様子(東部会場)



ロールプレイの様子(中部会場)

現代社会では、自殺に追い込まれるという危機は「誰にでも起こりうる危機」であり、特別なことではなく、身近な問題として受け止め社会全体として取り組んでいく必要があるといわれています。悩みを抱えた人にとって、問題への解決策やアドバイスを授けてくれる人も大切ですが、それ以上に、身近な人が話しを良く聴き、一緒に悩み、考えてくれるということ自体が、大きな支えとなり支援となります。

また、声のかけ方や話を聴くためのポイントは、悩みを抱えた人への関わり方に限ったことではなく、コミュニケーションの基礎的な部分として、日頃の夫婦、友人、同僚の会話など、日常生活場面でも活用できるものです。そういう意味では、ゲートキーパーとは、何も特別な資格や知識を持つ人ということではありません。人と人との繋がりが薄れてきているといわれる現代社会において、普段から身の回りの人の様子を気にかけて、元気がなかったら声をかけそっと気遣うという、これまで地域社会の中で当たり前のように行われてきた人への気遣いを、少し意識して実践してもらうことが、ゲートキーパーそのもののように感じられます。

もちろん、それですべての自殺が予防できるわけではありませんし、すぐには問題解決に至らないことも多いと思います。しかし、県民一人ひとりの、ちょっとした人への気遣いや声かけの輪が、地域に、生活の中に広がっていくことで、悩みを抱える人の孤立を防ぎ、支えあうあたたかい地域、生きやすい社会につながっていくのではないのでしょうか。今回ご参加いただいた方には、今後ゲートキーパーとして地域で活躍していただくことを期待しております。

皆さんも、ぜひ一緒に取り組んでみませんか。



なお、研修に参加していただいた方には、写真にあります『ゲートキーパー手帳』と『缶バッジ』を参加賞としてお渡ししています。研修を受けられた方は、ぜひこの缶バッジをつけて、地域や職場でゲートキーパーの輪を広げていってください。

## 特集

### ～自殺対策事業～

法テラス静岡

(日本司法支援センター静岡地方事務所) の取組

法テラス静岡では、昨年度から静岡県と共催で自殺対策事業の一環として、法律専門職と精神保健福祉専門職との連携を目指す取り組みを行っています。

今年度は、主に精神保健福祉専門職に対して、法律家の利用の仕方、法律家が支援できる内容についての研修会を行う予定です。

精神保健福祉の現場で働いているみなさんが、現場で直面する相談者の方が抱えている悩みで、どこに相談したらいいかわからないと悩んだことはありませんか？法律家の方に聞いてみたいと思っても、どうしていいかわからないと思ったことはありませんか？そんな疑問を解決してくれる研修会を開催したいと考えています。

県内3ヶ所で、以下の通り開催します。ぜひご参加ください！

静岡：日時 平成24年11月9日（金）19:00～20:45

会場 ペガサート

沼津：日時 平成24年11月15日（木）19:00～20:45

会場 東部パレット

浜松：日時 平成24年11月27日（火）19:00～20:45

会場 アクトシティ浜松コンgresセンター

講師：法テラス常勤弁護士 等

参加対象：精神保健福祉専門職、精神保健福祉関係機関職員

お申込・お問合せ先：法テラス静岡 TEL 0503383-5400（9:00-17:00）

日本司法支援センター静岡地方事務所（法テラス静岡）

# お知らせ

## 静岡県精神医療審査会事務取扱い研修会のお知らせ

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に基づく入院等の届出等について、関係機関の担当者向けに研修会を開催します。研修では、法的な理解や入院等の届出等の取扱いの重要性を改めて学びあう機会したいと思います。

日時：平成24年12月5日（水）午後2時30分から午後4時30分まで

場所：静岡県男女共同参画センターあざれあ 5階 501会議室

内容（1）報告「静岡県精神医療審査会における審査実施状況について」

担当 静岡県精神保健福祉センター 主任 後藤 康浩

（2）講演「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に規定される  
入院届等の法的意味と重要性について」

講師 藤枝のぞみ法律特許事務所 弁護士 宮田 逸江

対象 県内精神科医療機関入院届等担当者、県保健所担当者等

問合せ先： 静岡県精神保健福祉センター 054-286-9245 担当：後藤

## 心の健康フェア2012の御案内

今年も心の健康フェアを開催します。精神に障害のある方たちの手工芸品等の1週間の作品展（ハートフルアート展）、最終日にはバザー・うまいもん市、ジョイントコンサートが開かれます。コンサートには特別ゲストもお呼びします。会場ではスタンプラリーもあり、「アート展」「バザー・うまいもん市」「コンサート」の3会場をまわった方には抽選で遊園地のペアチケットが当たります。テーマは「みんなの和（わ）、笑顔の輪（わ）、やさしい話（わ）」です。ぜひお近くの方を誘って「わ」にご参加ください。

●会場：静岡県男女共同参画センター あざれあ（静岡市駿河区馬淵1-17-1）

●内容・日時：「ハートフルアート展」11月10日（土）9時～11月15日（金）16時30分  
11月16日（金）9時～14時30分

「バザー・うまいもん市」11月16日（金）10時～15時

「ジョイントコンサート」11月16日（金）11時～14時45分

●その他：参加費無料・どなたでも御参加できます。

●問合せ：静岡県精神保健福祉協会（電話：054-202-1220）

コラム

## メンタリストになりたい

静岡県精神保健福祉センター 所長 内田 勝久

メンタリスト（読心術師）という他人のこころを読んだり操ったりできる人がいる。本当はマジシャン（奇術師）といってもよいのであろうが、いったいどうしてあんなことができるのか不思議でならなかった。

私も精神科医のかたわれなので、テレビに出てくるメンタリストのような能力が本当にあったなら、どんなに毎日の診療が楽になるであろうかと思ったりもした。

最近、書店で「脳はすすんでだまされたがる S. マニック他著 角川書店」という本を見つけた。副題に、「マジックが解き明かす錯覚の不思議」、本の帯には、「やられた！その時、脳では何が起きているのか？その謎を解くために、気鋭の神経科学者がマジシャンに弟子入り」とあった。さらに中をちょっと立ち読みすると、「これを読むと、もしかしたら自分もメンタリスト（マジシャン）になれるかもしれない」と思わせるような内容で、思わず買ってしまった。

脳は外部で生じている出来事について解釈するため、見たり、聞いたり、記憶を参照したりして情報処理をしている。上記の本は、その情報処理法が如何に錯覚を生じやすいかを論じている。またメンタリストは、脳の情報処理方法の弱点を上手に利用して、我々に錯覚を生じさせ、あたかも我々のこころを読んだり操ったりしているものであることを説明している。彼らは、最新の脳科学が明らかにした情報処理の知見を経験的に知っており、それを使ってマジックを作り上げているのであった。

残念ながら、この本を読んでも読んだ皆がメンタリストになれるわけではない。私は早速本にあるマジックをセンター職員に試みたがうまくいかなかった。やはり知識だけではだめで、相手に自分のこころを読まれたと思わせるにはそれ相当の技術が必要であり、その技術を身につけるためにはかなりの努力が必要であることを知らされた。メンタリストはやはり只者ではないのである。

これは、脳の情報処理や錯覚について興味のある方には是非お勧めする一冊である。

